

令和5年度第3回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

開催日時	令和5年9月28日（木） 午後2時00分～午後3時10分	
会場	阪南市役所別棟2階第3会議室	
出席者	会 長	森本 典子 （阪南市みんなの図書館を考える会）
	副 会 長	鈴木 恒一 （生涯学習部学校教育課）
	委 員	後藤田 郁子（市民公募）
	委 員	東堂 美幸 （子どもNPOはらっぱ）
	委 員	置田 萌香 （阪南市社会福祉協議会）
	委 員	隅田 恭子 （石田保育所）
	委 員	中川 智子 （子育て総合支援センター）
	委 員	立石 和 （こども未来部こども政策課）
	委 員	川浪 彩奈 （健康福祉部健康増進課）
	委 員	小林 彩乃 （阪南市立図書館）
事務局	生涯学習推進室長	矢島 建
	生涯学習推進室 室長代理	井上 真理
	生涯学習推進室 総括主事	籠谷 早織
欠席者	委 員	頭師 康一郎（市民公募）
	委 員	大塚 尚子 （はんなん子育てネットワーク）
	委 員	井上 和代 （阪南市子ども文庫連絡会）
	委 員	下出 千昭 （貝掛中学校）
	委 員	有田 佳乃巳（下荘小学校）
	委 員	宮元 早苗 （はあとり幼稚園）
	委 員	秋山 秀子 （生涯学習部生涯学習推進室）

事務局	<p>令和5年度第3回阪南市子ども読書活動推進会議を開会する。本日の会議は、阪南市子ども読書活動推進会議設置要綱第5条により、委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告する。</p>
	資料確認
事務局	ここからの議事進行は、会長にお願いします。
会長	令和5年度第3回阪南市子ども読書活動推進会議の議事を進める。
案件1	第四次阪南市子ども読書活動推進計画(素案)について
会長	<p>案件1、第四次阪南市子ども読書活動推進計画（素案）〔以下第四次計画〕について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事前配付した第四次計画を使って説明する。</p> <p>素案2ページから10ページに記載している第2章、第三次阪南市子ども読書活動推進計画〔以下第三次計画〕までの成果と課題については、前回の会議の内容に加え、各委員に個別ヒアリングした結果を落とし込み、整えたものである。</p> <p>素案11ページから14ページまでは、第四次計画におけるテーマと取組として、各施設・機関の第四次計画の取組を掲載しているが、まず、見出しには、前回の会議にて決定した、第四次計画のテーマ「本と出会い、その楽しさを共有する」を記載した。</p> <p>新たに取り組む内容については、第三次計画の5年間のうち3年間はコロナ禍と重なり、各施設・機関で取組を進める中で、困難となったことが多々あり、第三次計画からそのまま継続する取組と、今回のヒアリングで追加した取組とを併せて記載している。</p> <p>掲載している内容等について、意見をお聞きしたい。</p> <p>なお、欠席の委員から事前に意見をいただいているので報告する。</p> <p>素案12ページ、5-1幼稚園③として「家庭で絵本を介して過ごした時間の気づきなどを保護者から聞き取り、園だより等で“我が家のおすすめの一冊”などとして伝えます。親子で感じた楽しさが他の家庭にも伝わるよう、働きかけます。」と記載があるが、幼稚園では、現状において、この取組が困難となっているため、③はすべて削除するとのことである。</p>
会長	各委員のご意見をお願いします。

委員	<p>素案11ページ、1-2. 阪南市社会福祉協議会①で「まちライブラリー」とあるが、現在まちライブラリーは実施していないため削除したい。この部分の文章全体を見直し、後日事務局に提出する。</p>
委員	<p>素案13ページ、5-2. 保育所・認定こども園③市立図書館との連携に自動車文庫についての記載を追加してもらいたい。表記は事務局に一任する。</p>
委員	<p>素案8ページ、6. 小中学校・教育委員会で成果として列記されている取組が、小中学校の現場で実施したこと、教育委員会事務局が実施したことが混在していて、違和感がある。</p>
事務局	<p>見出しを付ける、順番を入れ替える等、事務局で表記を再検討する。</p>
会長	<p>阪南市みんなの図書館を考える会の部分と、本日欠席の委員から意見を預かっている阪南市子ども文庫連絡会の部分をまとめて伝える。</p> <p>素案2ページ、1. 家庭・地域《成果》②の冒頭に「阪南市みんなの図書館を考える会では」を挿入してもらいたい。また、学校図書館専任司書の配置については「1校1名の実現を要望する」と明記したい。</p> <p>阪南市子ども文庫連絡会は、現在の危機的状況を入れたいと要望があったため、下記の通り改めたい。</p> <p>素案3ページ、⑨で、コロナ後の活動の実態を、どの文庫も同じように活動ができているように記載したが、コロナ前と同じように活動ができている文庫とまだ子どもが戻ってきていない文庫があるため、表現を改める。</p> <p>素案11ページ1-1. 阪南市子ども文庫連絡会①「校区福祉委員会」を「地域」に修正する。②だが、子ども人口の減少、文庫世話人の高齢化に伴い、文庫活動の維持が困難になっている。子ども文庫を続けていくために、地域との連携等検討していく旨を追記したい。</p>
事務局	<p>素案13ページ6-3. 高等学校は、令和4年度から委員不在となったため、阪南市立図書館協議会における泉鳥取高校の読書活動の取組等の報告を元に事務局が作成した。</p> <p>また、素案9ページと14ページの図書館について、市内にある少年院（和泉学園、泉南学寮）へのアプローチが抜けているので追加する。これは、第一次、第二次の計画には入れていたが、取組が全く進展しなかったため、第三次では削除した部分である。しかし、現在、少年院と連携することができているため、追加するものである。</p>

その他各委員	追加意見なし。
会長	では、各委員から出た意見を反映し、事務局に素案の修正をお願いする。
案件2	数値目標について
会長	案件2、数値目標について、事務局より説明をお願いする。
事務局	<p>数値目標については、令和4年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議において、数値目標を入れてはどうかという意見が出た。第一次計画から第三次計画までは、具体的な数値目標を決めずに、数字にとらわれることなく計画を推進していこうという方針を取っていたため、あえて数値は入れていなかった。数値目標を入れるメリットとしては、数値を入れることにより、目標の達成度が明らかになることである。</p> <p>資料2は、検討材料として、数値目標を入れる場合、想定される項目を事務局が案として作成したものである。</p> <p>【成果指標】は、「令和4年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）による数値であり、【第四次計画への取組指標】の項目は、近隣市が設定しているものから、ピックアップしたものである。</p> <p>目標値として記載した数値も、過去の数値の推移から事務局で推測したものとなる。</p>
会長	数値目標を入れるかどうかについて、各委員の意見を求める。
委員	数値目標があれば、達成できているか等が分かりやすくなるが、反面、数値にとらわれて達成することが目的となってしまうかと危惧する。一度やってみてもよいと思う。
委員	数字は見えやすいので、取組の参考になる。
委員	個人的な意見ではあるが、入れてよいと思う。
委員	子育て総合支援センターとして、どんな数値を出したらよいか思いつかない。また、本を読む子、読まない子で、1人当たりの読む冊数にはすごく差があるのに、統計的な数値になると平準化されてしまうため、それが見えなくなってしまう。数値を出すのであれば、読む冊数が多い子、少ない子の差が見えるように工夫した数値がよい。

委員

資料2の具体的に数値を入れた案を見て気づいたことは、府内平均等、数値があると本市と比較ができ、自分たちの取組が客観的に見えることである。数値目標を入れることはよいと思う。しかし、就学前の子どもの読書についての項目としてどんな数字が出せるかを考えたが、ふさわしいものがない。市立図書館の年齢別利用統計が活用できるのであれば、数値はある方がよい。

委員

資料2で現状の数値を見ると、自分が普段仕事で感じているのと違う結果が出ている。現状把握や今後の見通しを客観的に見ることができるので、数値があればよいと思う。

委員

毎年、成果としての数字を積み重ねていけば、次の目標が立てやすくなると思う。しかし、子どもの人口の減少が予想される中、単位を「人」とするのはふさわしくないのではないか。取組を頑張っても、現場では人数が増えたと感じていても、総数の減少が大きいと、結果として数字は増えないことも考えられる。数値は、「人」を単位にするより「%」を単位にする方がよい。

委員

数値があると取組状況が客観的になるのは明らかであるが、このために新たな統計業務をお願いするのは、忙しくしている各施設や現場の方に新たな負担をかけることになる。

今回は、すでに通常業務として集計されている項目や数値を使うことにし、第四次計画に取り組む5年間の間に、次の第五次計画に向けて必要な項目や数値が見えてくればよいと思う。

全国学力・学習状況調査は、毎年、小学6年生と中学3年生を対象に実施するものである。同じ子どもたちを追いかけて、変化を見るという調査ではないことを申し添える。

会長

今回数値目標を入れ、5年間数字を追っていくことで、次の計画策定時に、今までの取組が不足している部分、注力が必要な部分が見えてくるのではないか。例えば、全小学校が市立図書館の見学を行っていると思っていたので、資料2をみて、実態が数字として明らかになり、少ないことに呆然としたし、全小学校が市立図書館の見学に行ってもらうためにどんな取組を進めたらよいただろうと考えることができた。

各委員の意見をお聞きしたが、総意として、第四次計画では、めざす目標を言葉だけでなく、数値でも表すということとする。

取りあげる項目について、先ほどの発言のなかで様々なご意見をいただいたが、あらためて、どの項目を掲載するかについて、意見をお聞きする。

委員

全国学力・学習状況調査は、全国の小学6年生と、中学3年生が、一斉に同じ問題の試験を受け、学力の調査を行うものである。教科のテスト以外に学習環境や生活環境についてのアンケートが同時に実施されており、たくさんの質問がある中で読書に関する質問項目として、学校の授業以外にどれくらいの時間読書をするか、学校図書館や地域の図書館に行く頻度、家にある本の数、読書は好きかの4項目がある。アンケートの項目は固定のものではないため、今後変更される可能性があるが、この項目が全国学力・学習状況調査の設問として採用されている間は、学校教育課として数値を提供することはできる。

会長

資料3の松原市の項目に、「学校園への貸出冊数」という項目がある。市立図書館と学校園の連携が可視化できるので、この項目を入れてはどうか。

委員

学校等への貸出冊数は、市立図書館で統計を取っているので数値を出すことができる項目である。

委員

学校図書館では、児童生徒への貸出冊数の統計を取っているので、学校図書館が子どもたちにどのように利用されているかという項目として出すことができる。ただし、学校の規模が違うので、貸出冊数をそのまま出すのではなく、児童生徒1人当たりの貸出冊数という出し方になる。

事務局

市立図書館の貸出人数について、延べ人数ではなく1年間に何人の人が図書館で本を借りたかという実利用者数で出すことで、何人が図書館を利用しているかが分かる数字となる。

委員

年齢ごとに分けて実利用者数の統計帳票が出せるか確認するが、注意しなければいけないのが、保護者が子どもの分もまとめて本を借りることがある点である。市立図書館の貸出冊数は、上限を設けていないため、1枚の貸出券で家族分を借りる場合が多い。そのため、正確な数字とならないことを認識しておいていただきたい。

委員

今後、児童・生徒数が減少していくことが予想できる状態で、単なる冊数だけで増加をめざすというような目標を立てるのは現実的ではない。冊数については1人当たりの冊数やパーセントで出す方がよいと思う。

先ほど、本をたくさん読む子、全く読まない子の差が見える工夫があればよいという意見があった。読む子と読まない子の差は、中学校では特に顕著であるが、統計的にそれが分かる数字を出すのは難しい。

事務局	<p>資料2に事務局案として挙げた項目は、新たに統計を取るのではなく、すでに集計している数字を使うことを前提にピックアップしたものである。市立図書館では、図書館システムを使い、貸出他各種業務を行っているので、統計を出すことは他の施設より負担が少ない。</p> <p>各施設・機関等で取組が進んでいくと、結果的に市立図書館の利用が増えていくという一面があると思うので、市立図書館から提供する項目だけでも、市全体のことが見えてくるのではないかと。</p>
委員	<p>この会議に参加している各施設・機関等がそれぞれめざす目標としての数値が出せるのであればよいが、地域の人々や幼児は小中学生のように義務教育ではないので、その年代の子どもが所属する組織というものではなく、指標は出しにくい。</p> <p>この計画の達成目標として小中学生と市立図書館の数値だけを出すことで、皆で取り組む目標が市立図書館の利用促進だけになってしまうことを危惧する。</p> <p>指標を数値で表すことを否定するわけではないが、皆がめざすための目標ではなく、参考資料といった扱いで巻末につけるような形にならないかと。</p>
会長	<p>市立図書館から数字を提供してもらっても、市立図書館の利用促進に直結するわけではない。小中学校への団体貸出冊数があれば、学校との繋がりが改善点が見えてくる。</p>
委員	<p>目標値がその後どうつながるのかが分からない。例えば、市立図書館の見学に来た学校20%となっているが、来なかった学校はどうか。</p>
会長	<p>小学生の社会見学で市立図書館に来てもらうには、学校側の意識を高めてもらうため、年度初めの学校への周知や、来なかった学校に来年度は来てもらえるような働きかけを、教育委員会と市立図書館が行うことが考えられる。</p> <p>できなかった、来なかったで終わるのではなく、次はできるように、来てもらえるように工夫したり、相手への働きかけを続けるのが読書推進である。</p>
委員	<p>小学校の社会見学の実情をお伝えする。昨年度、今年度は、市役所の見学に全小学校が来たが、学校から市役所までの距離や移動手段により見学に使える時間が変わるため、どんな時間配分でどこを見学するかは学校の判断となる。しかし、市役所のすぐ隣に位置する市立図書館を見学ルートに組み込む学校を増やすことは不可能ではない。</p>

委員	<p>市立図書館の見学が大切なのは理解するが、市立図書館利用と学校の関係の中に地域の団体や幼児対象の施設は入っていけない。いろいろな部署から集まってこの会議を開催しているメリットを生かすなら、市立図書館利用の促進を新たな項目として追加し、皆で話し合っはどうか。</p>
事務局	<p>繰り返すが、資料2に示した項目は、すべての施設に目標値設定を求めることは現場の負担を考えると現実的ではないため、目標達成の指標、目安として、今すでに集計している数値を利用するという方針で提案したものである。</p> <p>今回が初めての数値目標設定となるので、第四次計画で掲げた数値目標がふさわしいものであったか等検証を行い、次の第五次計画に繋げていきたいと事務局では考えている。</p>
会長	<p>読書推進の核となるのは、市立図書館であると、私自身は考えている。市立図書館と各施設・機関や団体の皆さまとの連携の成果が読書活動の推進につながっていく。図書館利用の数値は大切であるが、数字にとらわれるのではなく、子どもたちが本に出会った時の感情をより大切にしたい。</p>
委員	<p>学校図書館や幼稚園・保育所に備えた本は、基本的にそこに所属している児童・生徒・園所児しか利用できないが、市立図書館は市民の誰もが平等に利用できる施設であるため、市立図書館が読書推進の中心となるのは自然なことである。</p>
事務局	<p>数値目標について、率直なご意見をたくさん述べていただき、感謝する。</p> <p>資料2は、新たに追加する数値目標がどんなものであるか、イメージしやすくするために項目のたたき台として提示したものである。</p> <p>第四次計画に掲載する項目については、本日の各委員の意見を参考に、会長、副会長、市立図書館と協議して素案に盛り込むこととし、後日委員の皆さまにご確認をお願いする。</p>
委員	<p>自分たちの活動が市立図書館の出す数値にどうつながるのか、どんな活動をすれば、その成果が出せるのか、イメージが持てない。計画全体の成果指標としてではなく、計画の進捗を把握するための目安の一つとして巻末に掲載するような形を考えてもらいたい。</p>
委員	<p>今回出す数値は、ゴールとしての目標ではなく、阪南市の読書推進を客観的に見るためのものである。</p>

事務局	<p>数値目標のページには、皆がめざす「目標」という出し方ではなく、市立図書館の数値を計画の進捗状況を把握するための目安として使っている等の説明文を入れることとし、参考数値であることを明示するとともに、挿入する場所についても配慮を行うこととする。</p>
案件3	事務連絡
会長	<p>案件3、事務連絡について、事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	<p>本日の議論を基にこの素案を修正し、再度委員に送付する。 修正した素案は、10月26日（木）の図書館協議会にて、ご意見をいただく予定である。</p> <p>その後、資料4 第四次阪南市子ども読書活動推進計画策定スケジュールに従い、11月24日の第11回定例教育委員会にて教育委員に、12月の厚生文教常任委員会にて市議会議員に対し、計画作成の進捗状況と、素案に対しパブリックコメントを実施することを報告する予定である。</p> <p>素案は、市長の決裁を経て、1月にパブリックコメントを実施することとなる。</p> <p>パブリックコメントの資料設置場所として、市立図書館、公民館（3カ所）、保健センター、子育て総合支援センター、市役所を予定している。</p> <p>素案に対する意見を事務局で集約し、第4回の会議にて委員のみなさまに報告し、ご意見をいただく予定である。</p>
会長	<p>他に意見等ないようであるので、本日の案件はすべて終了とし、会議の進行を事務局に戻す。</p>
事務局	<p>活発な意見交換に感謝する。 以上をもって、令和5年度第3回阪南市子ども読書活動推進会議を終了する。</p>